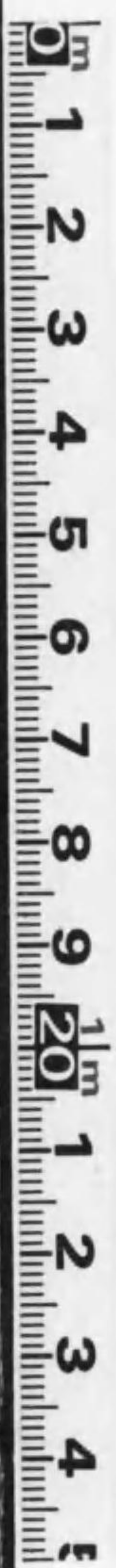


實證  
難病即治の妙法

特260  
513



始





行260  
513

保實  
證行  
**難病即治の妙法**





### 實證難病即治の妙法

昔から口訣の秘傳としていろ／＼の病氣を即治せしめる秘訣妙法があり、醫者や民間療法家等によつて盛んに行はれ來つたものであるが何れも驚異すべき奇蹟的効力があるのでさながら魔術かの如く思惟されてゐるが決して魔術でも何でもなく又暗示療法でもない。この療法を微細に検討するとき今日の醫學上生理解剖學的に考察してこの即治療法が全く合理的のものであり即効ある事が決して不可思議ではなくむしろ即時効能のある事が當然でなければならぬと云ふ事になるのである。



今日の如く醫學の進歩により痛む箇所があれば直ちに注射だ。薬だと云つて強制的に一時おさへをする事が流行した結果こうした尊い合理的の神秘療法の影響が漸次日と共に、うすらいで行く事は誠に遺憾に堪へぬ次第である。今日の醫學者の如きも藥品萬能に走らず古來から我等の祖先によつて苦心研究完成されてゐるよう云ふ價値ある療法のある事を思ひ、ふりかへつて今日の醫學と比較對照研究されたいものである。

こう云ふ秘訣妙法は單に醫者のみに限らず療術家を始め宗教教育家はもとより弘く一般篤學の士に充分なる御研究を願ひ不時救急の用意に備へられん事をお薦めする次第である。

抑々この即治療法は前述の如く今日の醫學的立場から研究者

察して全く合理的のものであるが弘くこれが世に傳へられて居らぬのはこの秘傳が古來口訣の秘傳妙法として書物として公刊されなかつた事に原因するもので従つて誤り傳へられる様な結果に陥つた次第である。

爰に本院が讀者各位の前に古來口訣の秘傳妙法として一子相傳とされてゐたこの秘傳を誤りなく正しくお傳へする事の出来るの心から喜び本書をお願ひする次第である。

### ◇しやくの即治法

いやいとは今日の醫學上で云ふ胃痙攣である神経性胃痛とも謂ひさいこみとも云ふ婦人に多く起るものとされてゐるが婦人



ばかりではなく男子にも起る病氣である。原因としてはヒステリー、ヒポコンデリー、貧血、脊髄癆、多發性腦脊髓硬化症等から來るものと子宮や卵巢に疾患ある婦人にも頻發するものである。

しやくの發作を起すと胃部に刺すやうなえぐる様な強い痛みが起り患者は七轉八倒の苦しみをするがこれが激しくなると往々意識不明となる事すらあり周囲の人々の驚きは非常なものでよくこの苦しむ状態を芝居などでやる場面があるから讀者諸君は既に御承知の事と思ふ。

人口に膾炙してゐるしやくに、嬉しい、男の力と云ふ言葉はこの發作を止めて樂にさせる事が男の力によつて出來る事を云つた

ものである。

然らばこの苦しみを即治せしめるにはどうしたらよいかと云ふに先づ患者を伏臥せしめ術者は患者の體にまたがり兩手の四指を伸し患者の腰部(第十二肋骨の下)にあて兩拇指を上向きに充分伸しきり背骨の兩側第十、第十一胸椎あたりの骨を少し離れた所に拇指の先をあて一分間位宛四五回強壓すれば即治する大體しやくの發作は腹部内臓の收縮痙攣する事によつて疼痛を感じる急性的の疾患であるからこの收縮痙攣を緩和せしむる事によつて疼痛を除く事が出來る生理的現象を考へるときこの妙法がしやくを即治せしむる唯一つの秘訣である事が充分なづかれるであらう。



患者を伏臥せしむる事の出来ぬ場合、例へば路傍等に於て急發したる場合これを救急療法するには伏臥の代りに伏座せしめた儘以上の秘法を施すのである。即ちこの強壓する事によつて神経を刺戟し收縮を緩和せしむる事を得る次第である。

### ◇齒痛止めの秘法

先づ患者を座らせ或は立つた儘でもよろしい。疼痛を感ずる齒の上を患者自身の指先をもつて強く壓させながら術者は患者の背後より痛む方の齒の側の耳の下と耳の前との二ヶ所を中指と薬指とをもつて少々強く二三分間押壓する。この場合片方の

手は患者の頭部へ當て軽く支へる様にするのである。

齒痛は總て三叉神経痛でこれが昂じて顔面神経を侵されるものであるからこの兩神経の出口を強壓即治せしむるのであるがこれだけで即治せぬ様な頑固なものに對しては指頭をもつて痛む方の肩井を數十回押壓すればたいがいの齒痛は必らず全治するものである。

### ◇しやつくり止めの秘法

しやつくりは横隔膜の痙攣を謂ふ。横隔膜が突然收縮して空気を吸引すると同時に聲門の閉鎖を來たしこの際一種の聲音を發



する。

昔からしやつくりが三日續くと死ぬと云はれてゐるがこれは事實である。頑固なものになると薬でも注射でも決して止まるものではない。

醫者の鼻祖ヒボクラテスは吃逆の發作が起きたら鼻の孔をかんによりをもつて輕るくつゝくといさめを數回してとまるものである事を發表した。

このヒボクラテス法も相當効果はあるが我國に古來から傳はつてゐる秘法は更らに効果的でありどんな頑固なしやつくりでも直ちにとまる秘法である。

先づ患者に座位をとらせ術者は前にあつて片手の拇指と中指

とをもつて患者の喉頭の兩側下部を挟み壓するのである。この秘法によれば極めて即座にとまること實に奇妙である。

本書記載のものは總て何れも上記の如く極めて簡易に誰れにも即座に實行出来るものゝみであるがあまりにも簡易のため、

『何だ！こんな事で果してなほるだらうか？』等と疑をいだく方が本書讀者の中に一人でもあつては此上ない遺憾の極みであるから先づ何よりこの秘傳妙法をおぼへたら何より早く實行してこの驚異すべき靈驗に浴せられん事を切望する次第である。如何に驚くべき効果ありと謂はるゝ秘傳でもこれを實地に應用するに當りあまりに操作複雑或はこれを習得するに困難なものは何人も救急に際して直ちに行ふ事が出来得ぬ缺點を有つもの



である。

自己の手中にこの妙法を収め臨機に應用して萬人を苦患の淵から救ふことこそ世のため、人のためこよなき功德ではあるまいか。

我國には古來からこうした有難い秘法が先人の苦心研究によつて相傳されてゐるにも拘らず洋藥萬能に禍ひされてこうした秘法が日と俱に滅び行く事はなげかばしい次第である。本書の刊行がこうした時流に反抗して我國特有の妙術の中絶を防ぐ一助ともなれば編者望外の幸である。

### ◇こぶらがへりの即治法

こぶらがへりは烏がへりとも謂ふ。腓腸筋の強直性痙攣又は足趾筋痙攣で何れも突然疼痛が起り同時に膨隆して板の様に堅くなる。神経質の人や貧血症の人によく起る發作である。水泳時等は特に注意しなくてはならぬ。遊泳中に於ける溺死の原因がこのこぶらがへりである場合が極めて多い様である。

こぶらがへりの起きた場合は發作部を拇指で強壓するか拳をもつて叩くか或は痙攣を起した方の足首を曲げたり反らしたりせしめると即治するものである。



### ◇頭痛を即治快癒する秘法

頭痛の原因は一二にして止まらない。傳染病、腦病、貧血等にもなつて來る症候的頭痛の外に神經性頭痛と云ひ神經衰弱、血行障害、胃腸、眼耳鼻の病其他遺傳として起るものもあり中毒によるもの或は感冒等が原因するものもある。

原因の何たるを問はず頭痛を即治快癒せしむるには術者先づ患者の後首すじの上部後頭骨の下にあて他の四指は揃へてこれをこめかみの部にあて全指に力を込め患者の身體を伸び上げる様に頭部を突き上げてやる。この操作を數回繰り返すことによ

つて頭痛は即治快癒すること誠に奇妙である。

### ◇喘息の發作を止める法

せんそくは誰れも知つてゐる如く多くは夜間突然起る呼吸困難であつて呼吸の度に遠くまで聞えるやうなゼイ／＼した音を立てる疾患である。呼吸困難特に呼吸が甚だしく延長して高いゼイ／＼又ヒ／＼する音をたて體中の呼吸筋を使つて一生懸命の呼吸をするのが特徴である。劇しい場合には顔色は恐怖状を呈し、冷汗を流し、頭の靜脈は膨れ上り唇、鼻先等は紫藍色になることがある。又時々咳を發し、粘液様の痰を出すもので



ある。此喘息發作の持続は數時間より數日乃至數週に亘ることがある。

慣れぬ人が見ると非常に大病で激しい發作を起すと今にも死ぬかと思はれるほどであるが此發作で死亡する事は皆無であると謂つてよいのである。然らばこの發作は何によつて起るかと言ふに本當の原因は未だ判然しない様であるが氣管支筋肉の痙攣を起し、氣管の内腔が狭くなることによつて呼吸困難を起すのである。

發作中は呼吸困難を樂にせしむるのが主であるから先づ患者に座位をとらせ着物や帶をゆるめにし、室の周圍の戸障子を明け放つがよい。

斯くして患者は座位のまま、兩手を前の疊の上につかしめ頭を垂れさせ術者は背後に立ち上り肩から胸の上部、即ち第六頸椎より第六胸椎までの背骨の兩側の少し骨を離れた箇所を兩手指をもつて挟み、上から下へ漸次段々と一と押し十秒間位づゝ強壓する事を五六回乃至十回位繰り返し行へば即治するのである。

この部分を如上によつて強壓すると神經を刺戟して胸部内臓即ち心臟、肺臟等が交互に收縮又は擴張を起して喘息の發作を解消せしめるから自然と快癒するのである。



### ◇不眠症を直ちに安眠せしむる法

不眠症の原因にはいろいろあつて一様ではないがこれを直ちに安眠せしむるには先づコップに一杯の冷水を飲み仰臥のまま、自ら両手を重ね指先にて腹全体を五六十回繰返して指頭押圧を行ひそれから臍の上少し左寄りの處を深く押すとトキ／＼と脈が搏つ腹部大動脈の上指先をあて両手を副へ重ねたまゝ軽く押し乍ら脈の搏つのを一つ數へたら手をゆるめ又一つ數へたら手をゆるめるやうにする。斯ふした操作を二三百回即ち二三百脈の搏つのを數へてゐる中に知らず／＼深い眠りにはいるものである。

である。

### ◇テンカンの應急手當法

平素は何等の異常なく今まで活動してゐたものが一瞬にして唸り聲を發したかと思ふと目を白黒させ乍ら口をモグ／＼し顔を片方にしかめ手は拳を握り虚空を掴むが如くビク／＼させて卒倒し手足を痙攣させ口からは泡を吹き顔色蒼白となり小便を洩らしビク／＼とうごめく情景、神の呪ひか佛の祟りか見るも悲惨な有様を呈するのがこのテンカンの發作である。原因としてはいろいろあるが胎兒の時の腦發育不全か、赤ん



坊の時薬液性脳膜炎で治つたとか疫痢でひきつけたのが癒つたとか、肺炎で高熱のためにひきつけたのが癒つたとか、階段から転び落ちて頭を打撲したとか、兄弟喧嘩で頭を撲つて瘤を出したとか其他いろ／＼の原因があるが何れにもせよ脳血管の一部に發育不全又は異常を起し其部の血行が平素は差支ないにも拘らず疲勞、睡眠不足、過食、便秘、陽氣の變り目、月經時等に於て体内血行殊に脳内血行が少し變調を來すとその部分の血管が痙攣して一時脈が搏たなくなるとその部分の先の部分の脳に血液が回らぬ結果、意識消失して失神状態に陥るのであるが再び血行が正常に復するとケロリと快癒するのである。

チンカンで卒倒した場合、先づ帯を解きボタンをはずし衣服

をゆるめて安臥せしめ呼吸や血行の樂に出来る様にしてやる。次に怪我をさせぬやう周到なる注意をなし口中には手拭かハンカチをくわへさせ舌をかまぬやうにし術者は兩手にて患者の身體を動かさぬ様に肩から手先までと股から足先までとをしつかり掴んでやる事を繰り返し行ふと自然と覺醒するものである。

### ◇小兒ヒキツケ止めの妙法

小兒の腦は大體に於て過敏のものであつて腦の病氣は勿論のこと、胃腸の膨滿及其他の病氣殊に疫痢、赤痢、急性の胃腸カタル、蛔虫、高熱、尿毒症等の場合に突然痙攣を起し人事不



省に陥り、傍人の心膈を寒からしむるに至る事が屢々ある。殊に痙攣素質の小兒、人乳兒よりは人工營養兒などが罹り易い。遊んでゐる小供に突然起ることもあり又は他の病氣中異様の喚叫と共に發作する。そして手や足をビク／＼引きつり齒を強く喰ひしばり、眼球を上方に吊り上げ、顔色は蒼白にして死人を見るが如く目もあてられない慘憺たる形貌を呈するに至るものである。是が短時間にして止むこともあり長時間に亘ることもあり、反覆することもある。殊に本病を起した原因によつて腦膜炎、疫痢、赤痢等に於ては猛烈であり、或は反覆して致死的である。

子供の病氣の時よく注意してゐると、多少意識がポットした

り譫語を云つたり或は手足を細かく顫はせたり、睡眠中ビクツ、と動いたりして、痙攣の起ることが分る場合がある。斯様の時は腦の刺戟を軽くするために極めて安静にし頭部を冷し浣腸を行ひ食事に注意して發作の來るのを豫防しなければならぬ。

若し發作の來た時には多くの人は周章狼狽して患兒を抱き起したり、水を吞ませたり、大聲に呼び立てたりするが、矢張り安静にして、齒の間に舌を挟むと切れて出血するから、是を防ぐために楔形の木片等で開口させた後、手拭或はハンカチ等の端を堅く巻いて、口角から挿入して置くがよい。同時に浣腸を行ひ頭部を冷し顔を濡れた手拭で拭き、脚部に芥子泥を貼るの

はよろしい。併し水を飲ませることは非常に危険で本人が意識



して嚙下しないから氣管に這入つて窒息の憂があり或は嚙下性肺炎を起す危険がある。

古來相傳の小兒ヒキツケを止める秘法は小兒の帶を解き膝の上  
上に抱き上げ術者は左手拇指と中指にて患者の後ろ首筋の一番  
上の方即ち第二頸椎の兩側を狭み右手拇指先を水月に差入れ、  
他の四指先は左側肋骨下にあて全指先にて臍の附近まで押し下  
げては手のひらにて臍の下を壓し上げ乍ら左手をもつて上體を  
前に屈め體を二つに折るやうにすること七八回によつて小兒は  
泣き聲を發して蘇生するものである。

### ◇氣絶者を覺醒せしむる秘傳

高い所から落ちたり或は身體をぶつつけたりして氣絶した人  
を覺醒せしむるには氣絶者を背後から抱き上げ氣絶者の下腹部  
を兩手を組みかゝへ込み氣絶者の足が地につくやう二三十回  
振り上げると忽ち覺醒するものである。輕症なものに對しては  
拇指と薬指との間のつけ根を強壓する事によつて覺醒する。  
覺醒後は番茶か鹽湯或はブドー酒を興へるがよい。

### ◇腰の痛み即治の妙法

先づ患者を伏臥せしめ術者は痛む方の側にあつて腰骨を探つ



て見ると特に痛い箇所があるからこの部分へ術者の足の大趾先をしつかりとあて、置きその側の患者の片足を曲げ両手をもつて足首を持ち痛む部分にあて、ある大趾先で強く壓すると同時に曲げた片足をギユツと引上げる事を行ひ手早く下方に廻つて其足を伸して四五回真直ぐにぐんぐんと引張るのである。

### ◇手首の痛みを除く秘傳

手首の痛むことは捻挫が主因で腕骨を傷めてゐる場合が多い術者先づ患者の前面にあつて痛む手を座ぶとんの上にのせ手首を探ると特に疼痛を感じずる部分がある。この疼痛を感じずる部分

に足の大趾先をあて片手をもつて患者の指先を引張り乍ら急にこの指先を上方へ返らすと同時に痛む箇所にあて、ある大趾先で強く壓すると手首の痛みは完全に除去されるのである。

### ◇寢首の痛み即治法

朝起きて見ると首が痛くて廻らぬことがある。甚だしい場合は一週間も十日間も痛むことがある。

この寢首の痛みを即治せしむるには患者を仰臥せしめ術者は患者の頭部上方に平座し後ろ首すじを探つて見ると特に痛む部分があるから其の壓痛點に術者の大趾先をしつかりと當て、置き、片方の手掌に患者の後頭部を載せ片手をもつて下顎をかゝ



へて全身をずり上げるやうに頸すじを引伸すと同時に痛む個所  
にあてゝある大趾先を以て痛む部分を強く壓するのである。

### ◇肩、肘、顎のはづれたるを簡易にはめる妙法

元來肩や肘の關節は一度はづれる癖がつくと一寸した事でも  
直ぐはづれ易くなるものであるから充分注意すべきである。

術者は患者の患部側方にあつてはづれたる方の腋下に足の平を  
あて両手にて抜けたる手首をとり充分に引張りたるまゝゆるめ  
ずこれを上の方へ廻し上げるとゴツンと音がして直ちにはまる  
ものである。總て關節のはづれたる場合は關節附近の腱が收縮  
してゐるからグン／＼引張つて腱を充分伸ばしその儘大きく廻

してやると必らずはまるものである。肘のはづれたる場合は肘  
の内面を足の平にてふまへ以上の操作を行ふのである。

顎のはづれたる場合は患者を座せしめ術者はこれと對座し兩  
手拇指を患者の口中に差入れ拇指の平を兩方の下の奥齒の上  
にあて肩の方へ押し下げるやうにして急に下方へ顎を引張るので  
ある。この場合指を噛まれぬやう注意する事が肝要である。

### ◇鼻血止の秘法

鼻血の止まらぬ時は術者先づ患者の背後に立ち患者の後ろ首  
筋の中邊の外側を手刀（左右何れの手にてもよろし）をもつて  
ピンと強打し片手を後頭部にあて片手を顎下にあて頭部を後



に反らし左右に數回振り動かすと止まるものである。  
 以上の秘法で止まらぬ頑固な場合は肩井を數十回指頭押壓すると必ず止まるものである。

### ◇腰の抜けたるを直ちに立たしむる妙法

腰の抜けた人の兩脚を投げ出させた儘座らせ術者は背後にあつて兩手を患者の下部に廻はし下腹を抱くやうにして兩手先をもつて腸をグン／＼かきあげること數十回行ふと忽ち立ち上るものである。

以上の外いろ／＼の疾患難病等に對する古來相傳の療病治癒の秘傳秘法等をも併せ詳述したのであるが本書の題名がこれ

を許さないの何れこれ等の秘法即ち慢性の諸疾患に對する治病秘傳は之れを他の機會に譲ることゝし手掌をもつて諸々の病を簡易に治癒せしむる各自天賦の自然癒能力發現の秘法を附録として添付することゝした。

### ◇靈掌治病秘傳

手掌をもつて諸々の難病痼疾を癒すことは洋の東西を問はず古くから盛行に行はれてゐること奇蹟でも何でもない。只人間の浅い經驗と醫藥萬能の觀念とに禍ひされてこの偉大なる自然癒能力がいつの間にか吾人に忘却されたまゝである。

神は人類を造り給ふときこの偉大なる自然癒能力をも肉體と



併せ附與されたのである。

見よ！頭痛のするとき知らず／＼頭に手をあてる。腹が痛むとき手をもつてこれをなでる。この行爲は手掌から發する癒能力を發揮せしめやうとする自然的動作に外ならぬのである。釋迦も基督も手掌をもつて諸々の難病を癒された。人々はこれを不可思議視したのであるがこの癒能力こそ釋迦や基督にのみ特に附與されたものではなく吾人々類誰れしもが享有する力である。これを自得して益々發揮せしめるか、或は不幸にしてこの偉大なる力を知らずして看過する乎によつて天賦の能力にも雲泥の差違を生ずる結果となるのである。

聖書にも「日のいる時さまざまの病を患ふ者をもつ人、みな

之れをイエスに連れ來れば一々其上に手を按きて醫し給ふ」

「イエス或る町に居給ふとき視よ全身癩病を患ふ者あり、イエスを見て平伏し願ひて云ふ主よ御意ならば我を潔くなし給ふを得ん、イエス手をのべ彼れにつげてわが意なり潔くなれと云ひ給へば直ちに癩病醫されたり」  
「イエス安息日に或る會堂にて教へ給ふとき、視よ十八年の間病の靈に憑かれたる女あり。屈まりて少しも伸ぶること能はず。イエスこの女を見、呼び寄せて女よなんぢは病より解かれたりと云ひ之れに手を按きたまへば立刻に身を直ぐにして神を崇めたり」とあり又「イエスペテロの家に入りその外姑の熱を病みて臥し居るを見、その手に觸り給へば熱去り女起きてイエスに事ふ」とあり。此外難病癩疾を患



ふ者や不具癡疾を手をもつて癒された事實が處々に散見する。

佛教大智度論第八卷に「佛手をもつて其身を摩でたまふ。其身を摩づるとき一切の苦痛は即ち皆除き癒え心身安穩なり」其第九卷に「人の癩風を病めるあり、遍吉菩薩の像の邊に來至して一心に自ら飯し、遍吉菩薩の功德を念じ願はくば此病を除きたまへと、是時遍吉菩薩の像即ち右手の寶渠の光明をもつて其身を摩づれば病即ち除癒す」とある。

西歐諸國に於ても手掌をもつて諸々の病氣を醫す事が行はれ我朝に於ても弘法大師を始め高德の名僧中にはこの自然癒能力を發揮して多くの病者を救済された事實は口碑傳説のよく傳ふる所である。

斯くの如く患部に手掌をあて、病氣を癒すことは今日始めて發見されたものではなく洋の東西を問はず古くから行はれて來たものであるが、この秘術は極めて神秘的なもので神か佛か凡そ超人でなければ出來ぬものゝ如く或は數年數十年の難行苦行によらねば容易にこの奥義を體得する事の出來ぬかの如く勿體ぶつて宣傳してゐる者が多い。

又この秘訣を傳授するにも何れも二十圓三十圓の傳授料を要し容易にこの秘法を窺知するを得なかつたのであるが手掌から發する自然癒能力こそ神が人類を造り給ふとき其肉體と俱に何人にも附與し給ふたのであるから萬人生れ乍らにして具有する天賦の靈能である。



この靈能を知らずして死蔵するか、これを知つて益々發揮せしめる乎は一つに其人の體力、修養の深淺、經驗の多少によつて岐るゝものである事を深く念頭に置き以下述べんとする各項を精讀されたいものである。

凡人間の身體は全身に新鮮なる血液が完全に循環して居るならば決して病氣に罹るものではない。然るに不攝生、過勞、睡眠不足其他不自然なる生活をするならば、忽ち異常を感ずる。この異常を稱して病氣と云ふのであるが人間には自然の良能がある。この良能こそあらゆる病魔を退散せしめる力をもつものである。吾人はこれを自然癒能力と云ふ。ところが自然癒能力も一旦病氣に罹ると其力が稀薄となり完全に能力を發揮することが出来

なくなる。

この時こそ修練を積んだ手掌をもつて疾患部にあてるのである。斯くする時は忽ちにして人間本來具有する天賦の靈能は充分發揮され疾患部に革命を誘致し血液の循環は良くなり慢性痼疾も回を重ねる毎に目に見えて快癒にむかふものである。

この場合時により患部に靈掌(手掌)の事を以下靈掌と書く。この靈掌とは修練を積んだ手掌の意をあてると術者の手掌が痺れ或は痛みを感ずる事があり手掌のみならず肩のつけ根邊まで痛みを感ずる事があるがこは被術者に病氣の存在する證據である。醫者は病人を診断して患部を知悉するのであるが靈掌療法は診断即ち治療となるのである。



前述の如く靈掌を疾患部にあてると何故茲に革命を起すか、靈掌より或る物體が放射されるものが本療法に於て最も重要な條件で學者は生命線等と謂ひ又この種の療術家は靈或は靈能と云ふがこの放射機能こそ偉大なる治病能力を有する天賦の恩恵であり、この物體こそ治病効果を有するものである點寸毫疑ふ餘地なきものである。

この治療法は他の心理療法之如く患者自身がこれを信ぜなくてはならぬと云ふのではなく病者は平生の心もちで雜念をもつてゐても或はこの療法を疑つてゐても少しも差支なく信仰的觀念を必要としない點靈掌より放射される靈能の偉大、神の攝理に感謝せねばならぬ。

然らば如何にして天賦の靈能を發揮せしむべきかと云ふにそれには次の如き修業を必要とするのである。

術者たらんとする修業第一、先づ瞑目端座して全身の力を抜く、勿論双方の肩の力を抜かなければならぬ。而して合掌するのであるが合掌したときの肘は自分の乳頭と同等の高さを保ちこれより低下せしめず連續三十分位これを行ふこと。

修業第二。瞑目端座することと同様に於ては合掌する。第二法に於てはこの合掌に精神を集注するのである。精神の安靜統一を得たならば其儘兩手を約三分間摩擦し其後兩手掌を密着せしむる。此間約一分間位とす。次に其兩手掌を離し一寸位の間隔を置き六七分間この状態を續けるのである。六七分間を経たな



らば兩手を靜かに膝の上に置くのである。

右の方式により朝は第一法、夕は第二法を行ふこと連續一週間に及ぶときは治病に偉功ある靈能を自在に發揮放射出來得らるゝ靈掌が備はるのである。其後毎日一回でよいから前述の修業中一法なり二法なり自己の好む所を行へばよろしい。以上の説明によつて靈掌治病能力者となり得る修業の秘訣は會得された事と思ふ。

諸賢はこの方法により充分修業され靈掌治病能力者となられん事を切望する次第である。

尙この修業によりて果して自己の手掌から靈能が放射さるゝや否やを検するには先づ高合掌をなしたる後双方の手掌を二寸

三寸と靜かに開き見るのである。この場合兩手掌は自然と引き寄せらるゝ様な感じがする。ちやうど連根を二つに折り左右各一片宛を手にして引くとき無數の糸が現はれる、あの感じが現はるればもはや靈能が放射される能力者たり得た證據である。又冥目して左手を水平に差出し右の指頭を二三寸の距離の所より之れを直角に向けると左手の手掌には右手の指頭の向つて居る部分に一種の感じを興へる。涼しい様な感じであるが修業がつむと風が吹きつける様に感ずるものである。感じの判らぬ時は右の指頭にて縦に左の手掌を切る様にして見る。又横にも切る様にして見る。更らに縦横に之れを試みる時は必らず一種の觸覺を感ずることがある。これは手掌の溫氣のためでもなく



動搖する空氣のためでもない。實に靈能の放射するためである。修練を積むに従つて二尺も三尺も乃至五六尺もの遠方よりしても明らかに之れを感じる事が出来る様になる。患者の來訪を受けたとき突然五尺も六尺も隔てた所より患者に向つて手を翳したのみで、患者の疾患部が右側か左側かを手掌の感じにより窺知する事が出来る様にもなるものである。

患者を治療するには前述の修業を積んだ手掌をもつて患部にあてるが時によりて患部のみにては不充分的事があるから患部と密接の關係ある部分へもあてるが良い。例へば胃の悪い患者に對しては腹部は勿論であるが胃の背面にも手掌をし精神を爽快ならしむるためには頸椎骨の左右にも指頭壓を加ふる必要があるが之れを引く他人に施さんとするには生理解剖學の一斑

に通じなくてはならぬ。

手掌のあて方は直接皮膚にあてるのが最も好結果ではあるが衣服の上よりするも或は皮膚と少し間隔を置いてするも効果ありこれ等は男女老幼の差により適當なる處置をなすべきである尙火傷創傷打撲傷の如きは患部より少し離して手を翳せば靈能は患部に滲透して充分其目的を達することが出来るのである。

施術時間は修業の深淺、術者の熱誠、眞摯、經驗の多少等により異なるものであるが上達すれば僅かに五六秒時で充分であるが最初は二三分乃至は五六分を要する覺悟をもつてされたいものである。要は術者の熱誠と經驗の深淺とによるものであるから多くの患者を取扱ふことが第一である。

常に術者は自己の新陳代謝機能を旺盛にするため清淨なる生



水をのみ患者に接するには眞摯敬虔清淨の心をもつて必らずこの患者を治癒しなくてはやまぬと云ふ強い信念の下に施術すれば一層効果的である。

施術回数には病の輕重、術者の手腕如何等によつて異なるも輕きは一回乃至數回、慢性重症も數回乃至數十回の施術により快癒に向ふものである。尙慢性痼疾に對しては時に三四回乃至六七回の施術にて患者には病勢惡化したるかの如く感ずることがあるがこれは決して心配すべき現象ではなく反つて良好に向ふ前提である。これ病が動ずると云つて病狀が一轉して良好に向はんとする過渡期に生ずる自然現象でこの反應があれば其後日ならずして苦痛は消失して治病効果顯著となるものである。

本法は施術に際し手掌は最初一度置いた位置より決して動か

さぬことを注意しなくてはならぬ。

本法を醫藥と併せ行へば醫療の効果を一層大ならしめるもので如何なる病症に對してこれを行ふも何等の弊害なきものであるから一度本法を修得すれば他人の病氣は勿論自己の病氣をも輕症の中に速やかに治癒せしめることが出来るのである。尙この療法は萬病に驚異すべき効顯あるものであるが特に左の如き病症に對し最も治癒能力あるものである事を爰に特記して置く

胃腸病、肺病、腦病、神經衰弱、肋膜炎、腹膜炎、心臟病、神經痛、リウマチス、肝臟病、中風症、子宮病、糖尿病、脚氣、齒痛、寢小便、眼病、子宮癌、脊髓症、喘息、盲腸炎、癌類、小兒病、皮膚病、其他慢性諸症等。大略以上の説明によつて、靈掌治病秘法の理論及施術秘法を會得された事と思ふ。速やか



338  
1187

に修業を始め一日も早く靈掌治病能力者となられん事を望む次第である。最後に一言する。諸賢は前述の方法により一週間の修業を終られたならば就寝前横臥したまゝ五分乃至十分間自己の手掌を胃部にあてる事。此際靈掌より放射される靈能によつて胃はグウ〜と音を發して其機能の順調に赴くのがよく判るこれによつて消化力を助け營養分を吸収し残滓物の排泄を順調にするから此方法を行へば決して便秘する事がない。胃腸は萬病の根元をなすものであるから健全を問はず實行せらるれば靈掌治病能力養成の一助ともなり一舉兩得の結果を得らるるのである。

實行難病即治の妙法 終

内務省御届濟

<p>實行 難病即治の妙法 定價 金貳圓也</p>	<p>昭和十一年十月二十日 印刷 昭和十一年十月廿五日 發行</p>	<p>著作兼 發行人 臼 井 正 東京市中野區大和町六十二番地</p> <p>印刷人 今 井 譽 利 東京市神田區司町二ノ廿一ノ三</p> <p>印刷所 今 井 印刷所 東京市神田區司町二ノ廿一ノ三</p>	<p>發行所 曙 書 院 東京市中野區大和町六十二番地 振替東京八五九九七番</p>
-----------------------------------	--	---	--



終

